

平成 24.3.27 受付
第 号

座間市相互提案型協働事業実施報告書

24年 3月 27日

(宛先)座間市長

団体住所 座間市入谷1-3555-5
名称 おやとも会
代表者氏名 長瀬未紗



市担当課 広報広聴人権課
所属長 加藤 敬



次のとおり報告します。

1 事業名	「命の大切さ・尊さ」発信事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成 23 年度選考 (平成 23 年度実施)
4 報告期間	平成 23 年 10 月 1 日 から 平成 24 年 3 月 31 日 まで
5 事業費	419,378円
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は別紙、事業詳細に記入してください。	<p>開催日時:平成 24 年 2 月 4 日(土) 場所:ハーモニーホール座間(小ホール、ギャラリー、大会議室)</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> いのちのメッセージを伝えるアート展(生命のメッセージ展 in 座間)の開催 いのちのミュージアム代表理事鈴木共子氏(座間市栗原在住)の講演会「見える命と見えない命」 映画『0からの風』の上映会 午前午後各1回、保育付き 子ども向け手作りミニ絵本のワークショップ 子ども作品展「ハートのタネをまきました」
5 添付資料	<p><input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他(アンケート集計結果、ミニ絵本、記事、収支報告補足)</p>

座間市相互提案型協働事業詳細報告書

1. 事業の目的・目標の設定と達成度	
<p>目的(何のために)</p> <p>「命の尊さ・大切さ」は誰もが知っているはずなのに、昨今、私たちの身近にはいじめや自殺など命を軽く扱う行動が多発し、命の重みが問われています。</p> <p>このような時代において、改めて座間市民、とくに子どもたちとその親に「命の尊さ・大切さ」を伝え、座間から全国に発信していきます。</p>	
<p>目標(何をどういう状態にするのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が、座間市で起こった事故を身近に感じることで「命の大切さ」を改めて考え行動することができるようになる。 ・ このような取り組みを、座間発の事業として、全国に発信できる。 	
達成度	<p>団体 (85 %)</p> <p>理由</p> <p>アンケート141枚回収のうち 137名が「命の重さ・大切さを考える機会になった」と答えている(4名は無回答)。全国各地で開催されているメッセージ展だが、今回の座間での開催は「子どもと親」に伝えたいという特色があり、子どもの絵の募集・展示、プレシャスママのコース等で明確に表現された。また市と協働したことや、タウン誌、新聞、ラジオ等で取り上げられたことで、座間発のメッセージとしてアピールできた。ただ今回の単独イベントとしては十分に評価できるが、13万人の人口で1300人の来場ということや、一日のみの開催、ハートのタネの絵を全校には声かけしていないということを考えると、もっと多くの方々に座間市で起きたこの事故や事業について知っていただく必要があると思う。</p>
	<p>市 (60 %)</p> <p>理由</p> <p>メッセンジャーによって、親族とその他関わりのある方々の悲しみや苦しきは、来場された方に伝わったと思われます。また、「ハートのタネ」を描いてもらうことによって、小さな子ども達とその親にも命の重さ・大切さを考える時間ができたことと思います。しかし、今後、同じような事故や事件を起こさないためには、もう少し教育的な内容を学習できる場が盛り込まれていれば、より「命の尊さ・大切さ」が伝わったかと思われます。</p>

2. 事業内容及びスケジュール

実施内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市との協定書締結	10/1 広報広聴人権課と締結					
実行委員会公募	10/5 ざまっとおやとも会ページにて募集					
実行委員会立ち上げ	10/28 第1回実行委員会					
広報周知		11/23～各イベント等でチラシ配布	12/15 広報ざまに告知掲載 自治会・公民館・高校等にポスター掲示			
ギャラリー展示の絵画募集		11/26 市内幼稚園・保育園・公民館にて絵画募集開始				
ボランティア公募		12/15 広報ざまにて募集、延べ6名応募				
ボランティア説明会				1/19 市役所にて実施		
前日準備					2/3 前日準備	
生命のメッセージ展 in 座間開催					2/4 アート展、講演会、映画上映、作品展開催（於ハーモニーホール）	
実行委員会解散(反省会)						2/21 反省会

3. 団体と市の役割分担

(団体の役割)

- ・ 事業の運営全般
- ・ 「生命のメッセージ展」の企画、運営(準備、進行、片づけ等)
- ・ 「いのちのミュージアム」との連絡調整

(市の役割)

- ・ 広報宣伝(公共施設内でのPR)
- ・ 広報紙への掲載
- ・ 運営開催に向けたアドバイス

4. 事業を実施しての成果・効果

(団 体)

幼い子どもが、自分より背の小さいメッセージを抱きしめるようにして見つめる姿、涙をぬぐいながら一枚一枚読んでいく中学生、書かれている内容を子どもに教えているお母さん、ご夫婦で何かを語りながら時間をかけてみてくださった年配の方など、本当に色々な世代、老若男女問わずじっくりと向き合っている様子が印象的だった。来場者一人ひとりに「いのちのタネ」が蒔けたと思う。アンケートには、「自分や家族が今生きていることへの喜びや感謝を感じた」という声が多く寄せられている。

視覚で訴えることにより、言語・年齢などを超えて、人として感じる事ができたと思う。また音楽や絵の展示、ワークショップなども行ったので、さらに共通意識が高まり、重いテーマに少しクッションができ、「生命をつなぐ」というテーマをより深く心に刻むことができた。

座間市で起こった悲しい事故を、10年前とはいえ知らない市民が多い中、特に子育て世代に命の大切さや、なにげない日常がどんなに大切かを理解してもらえたのは大きい成果だと思う。また、子どもは鮮明に記憶し忘れないので、来場した子どもたちが折に触れ、思い出して「つながれいのち」を長く広くつなげていってほしいと感じる。

さらに、絵を描いてくれた子どもにとっても「いのち」を考える機会になったり、来場者の気づきから言葉かけや振る舞いが変わることが周りの人達にも影響を与えていたり、大きな波及効果があると感じる。今回の事業の実施は「命を大切にすまち座間」への第一歩になったと思う。

今回の事業は行政も含め多くの方々が携わったことで成功につなげることができた。行政単独や市民団体単独では解決し難い地域課題に対し、協働で取り組めたことの意義は大きいと感じる。

(市)

等身大のメッセージと遺品、そして鈴木共子氏の講演を通して、不慮の事故や事件で家族を失った方々の深い思い、「命の尊さ・大切さ」は伝わったことと思います。また、小さなお子さんから学生、一般の方々に描いていただいた「ハートのタネ」の絵は、少なくとも描いている時間は「命の尊さ・大切さ」について親子等で考えていただけたかと思えます。さらに、コーラス等を組み込んだことにより一人で来場していただいた方も、その会場では皆の共通の意識を共感できたことと思われまます。

今回の事業を通して、少しでも多くの方にあらためて「命の尊さ・大切さ」を考え直していただくには、良い機会だったと考えます。

5. 事業を実施しての反省点(課題)及び対応策

団 体

- ・ これから免許を取る世代の中高生にもっと来場してほしかった。
- ・ 高校生にボランティアとして参加してほしかった。今回は2月の開催で、ボランティアの時間が単位取得につながりにくいため、興味を持って参加に至らない事例もあった。協働事業ならではの「地域密着型の事業」として、学生のボランティアの参加の機会を増やすことは今後の課題だと思う。
- ・ 協働事業申請のプレゼンテーションの際に提案した内容が明確・的確ではなかった。プレゼンテーション実施後に、提案になかったことを市に頼むことになった。
- ・ このような大規模な企画が初めてだったため、事業内容・予算・広報活動等において予想外のものが多く発生してしまい、計画の甘さが露呈した。

・ 対応策

- ・ 今回上映した映画のDVDは高校に無償配布されているので、学校での映画上映やミニメッセージ展、鈴木共子氏の話など、学校単位で取り入れるようアプローチする。
- ・ 県の「ボランティアエアポート」、市の市民活動サポートセンターなどと連携し、学生のボランティア参加の呼びかけを強化したい。
- ・ 市やホールスタッフと話す際の準備がもっと必要だった。
- ・ 今回の経験を基に、次はもう少し見通しを立てられると思う。

市

・反省点(課題)

等身大のメッセンジャーと遺品を展示することで、不慮の事故等で家族を失った方々の深い思い、「命の尊さ・大切さ」は伝わったことと思います。しかし、具体的に「交通事故を起こさないためには、どうすればよいか。」「いじめをなくすためには、どうしたらよいか。」などといった、教育的な学習指導が組み込まれていなかったことから、来場者に「あらためて考え行動するには、どのようにしたらよいか。」と言うことが、伝えきれたかどうか疑問であり、今後の課題となると考えます。

また、当初企画予定になかったことが次々と計画され、段取りがスムーズにいかなかったことは反省すべき点であると思われます。

さらに、今回のような規模の大きな展示会は1週間ほど期間を設けた展示会にすべきでした。

・対応策

「命の尊さ・大切さ」と「自分たちが加害者になってしまうことを考え行動すべき」ことを、特にこれから大人になっていく子ども達とその親に伝えたいということが目的だったことから、小中学校のPTA活動の中に取り入れていただけるような働きがけをしていく方法も考えていくべきである。

6. 今後の課題(協働事業を実施してみて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて。)

(団 体)

この事業を市との協働事業で行えたことには大きな意義があると思う。しかし、市民との意識の隔たりを感じたこともあった。市の職員・私たち市民、どちらももっと協働事業の本当の意味を理解し、お互いの立場を尊重しあいながら、熱意や目的意識を共有し連携できる関係づくりを築いていく事がこれからの課題だと思う。

今回は、10月から3月までという短い期間しか与えられていなかったのにも関わらず、9月17日に審査を通過してから協定書を結ぶまでに1ヶ月かかり、準備を進めるにあたり支障があったことが残念である。また、11月10日に伊藤課長から「主導は市民レベルで」と言われるまで、担当課と当会のどちらが主導権をとり進めていくのかわからず混乱した。双方でやりにくかったと思う。結局体勢が整い準備を具体的に始めるまで2ヶ月近くかかってしまった。初めての協働事業ということで仕方のないことかもしれないが、次期からの協働事業で同じ混乱が起こらないよう、協働課にはしっかりとした説明をしてもらいたい。

(市)

今回の事業は、市側の役割分担は広報とアドバイスにとどまり、日程と会場はすでに決まっていたことから、市民と協働で事業を実施していく本来の目的が達成できたかが疑問である。

また、相互提案型協働事業についての担当課からの説明不足や短期間での打ち合わせでは、共通の意識を深めることができなかったと考える。市民協働課は、協働事業について理解して指導するようにしてほしい。

7. 意見・感想(協働事業を振り返ってみて、気づいたことや協働事業全般に関する事などなんでも結構です。自由に記入してください。)

(団 体)

松崎さん始め担当課の皆様には大変お世話になりました。

全小学校、中学校へのチラシ配布、青少年健全育成大会や交通安全推進大会でのチラシ配布、映画やボランティアの申し込み窓口等、協働でなければ大変だったことが多い。協働事業についてはなかなかスムーズにいかず、疑問点が多かったが、結果的には協働事業になったからこそできたことがたくさんあり、たくさんの壁を乗り越えられてよかった。

今後、おやとも会として、今回座間で蒔いた生命のタネをどのように育てていくか、考えていきたい。

(市)

事業の担当課割振りについては、次長会議、審査会を行う前に、担当課に内容を確認すべきである。今回の事業には、「子どもとその親」に伝えたいという思いで行われた人権教育であり、学校との連携を要したことから、人権啓発の担当課で行う事業ではなかったと思われる。

また、市民団体が主体となって独自の事業で行うと思われたが、実際には、全国的に行っている展示会を座間市で開催するといった事業になってしまった。内容が確定している事業を市民と協働で行うには、相互提案型協働事業の目的の中の「市民の豊かな発想を活かした提案」とは違うのではないだろうか。